

総長選挙における
「学生による信認投票」の意義

早稲田大学政治経済学部政治学科
映像ジャーナリズム 高橋恭子ゼミ

学籍番号：1A191058

小野葉月

概要

小野葉月

早稲田大学では4年に1度、総長を決める選挙が行われる。第17代目総長、田中愛治の任期が2022年9月20日をもって満了することに伴い、総長選挙が2022年5月から6月にかけて実施された。本学の総長選挙は、三つのステップによって構成されており、そのうちの一つのステップとして「学生による信認投票」（以下「学生信認投票」という。）が存在する。学生信認投票とは、学生が総長候補者を信認するか否かを投票するものである。2022年5月24日から25日までの間に実施された学生信認投票では、在籍学生数49,275人¹のうち3,892人が投票し、投票率はわずか7.9%となった²。投票率が1割にも満たない学生信認投票に意味はあるのであろうか。

本論文では、総長選挙における学生信認投票の意義について検討し、低迷している投票率を上げるための解決策を考察することが目的である。まず第1章では、本学における総長選挙の歴史を紐解き、信認投票の変遷について検討する。そして第2章では、信認投票の現状および課題について探る。第3章では、投票率を上げるための解決策を見だし、学生信認投票の意義を考察する。

学生信認投票の課題および意義を検討するにあたり、総長選挙管理委員会委員長の秋葉丈志、現総長の田中愛治、および早稲田大学公認サークル政友会元幹事長の櫻井遼太にインタビュー取材を行い、早稲田大学の学生73人にアンケート調査を実施した。

インタビュー取材の結果、学生信認投票の意義は、意思表示の機会が制度化していること、および大学の目を学生に向けさせることであるとわかった。またアンケート調査の結果、学生信認投票の投票率が低迷している主な原因は、学生が総長選挙に対して無関心であることが明らかになった。

¹ 停学/休学中の学生、科目等履修生、外国人特別研修生、研究生、交流学生およびMyWasedaの利用を停止/禁止されている学生は含まない

² 総長選挙管理委員会, 2022